

DAC 新開発戦略 援助研究会報告書

第1卷 総論

1998年3月

国際協力事業団

総研
J R
98-13

序 文

東西冷戦の終焉という国際関係の劇的な変化や、グローバリゼーションの急速な進展は、途上国を取り巻く環境を大きく変化させています。そうした中であって、途上国の中には自助努力を通じて開発に成功している国々もありますが、依然として深刻な貧困問題を抱える国々も未だに多く存在しています。また、環境、ジェンダーなどの地球規模の課題やグッド・ガバナンスへの取り組みが、ますます求められるようになるなど、開発に対するニーズは依然として大きく、かつ、多様化してきています。こうした状況に対応するには、開発に携わるすべての関係者が、パートナーとして、積極的に開発過程に参加していくことが重要であると改めて認識されるようになってきました。21世紀に向けた新たな開発戦略は、このようなパートナーシップのもとに構想されるべきであると議論されるようになってまいりました。

このような流れを受けて、1996年5月に経済開発協力機構(OECD)の開発援助委員会(DAC)上級会合において『21世紀に向けて：開発協力を通じた貢献』(通称「DAC新開発戦略」)が採択されました。DAC新開発戦略は、21世紀に向けた開発戦略のヴィジョンを示すとともに、具体的な方策をも示すものです。すべての人々の生活の質の向上を最優先課題として掲げ、貧困問題、社会開発、環境問題を重視し、開発を進めるにあたり、さまざまな有効なアプローチを示しています。それは今後のわが国援助の指針となりうる内容を提示するものであることから、国際協力事業団(JICA)では本新戦略に照らした分野別の検討、国別の現状分析とわが国の援助のあり方の検討を行うことを目的として、1996年11月に「DAC新開発戦略援助研究会」を設置しました。

本援助研究会において、DAC新開発戦略で述べられているさまざまなアプローチや開発の目標を実際の援助の文脈から捉え直すことは、わが国の援助をより効果的なものとするのに有効な手段となるでしょう。また、各途上国のオーナーシップ向上の支援や、限られた援助資源を最大限に活用するために援助機関の協調を進める上でも不可欠なものであると言えます。リーディング・ドナーとして、わが国の本新戦略への取り組み方を世界に示していくことは大変意義深いことであり、今回こうした研究が行われたことは大変時宜を得たものであるといえます。

本援助研究会は、阿部義章早稲田大学大学院アジア太平洋センター客員教授(国際協力事業団客員国際協力専門員)を座長として10名の委員の方々により構成され、その運営にあたっては各委員を補佐するため、当事業団の国際協力専門員及び職員を中心とするタスクフォースを設けました。本報告書は、計16回の研究会における議論、ジンバブエとガーナへの現地調査、新開発戦略に関わる種々の国際会議への参加を通じて、その検討の成果を取りまとめたものです。

当事業団としては、この報告書に盛り込まれた貴重な提言を、今後の援助実施にあたって、重要な資料として十分活用するとともに、本報告書を関係各機関に配布し、より広範な利用に供してゆく所存です。

終わりに、本援助研究の実施及び報告書のとりまとめに当たって、大変なご尽力をいただきました阿部座長を始めとする研究会メンバーの皆様に深く感謝申し上げます。また、貴重なご意見をお寄せ下さった関係機関の方々にもあわせて御礼申し上げます次第です。

平成10年3月

国際協力事業団
総裁 藤田 公郎

はじめに

この報告書は、1996年11月に国際協力事業団の委嘱によって設置されたDAC新開発戦略援助研究会における検討結果をわが国のDAC新開発戦略に沿った取り組みと今後の援助のあり方に関する提言として取りまとめたものである。

東西の冷戦終結以降、開発援助を取り巻く環境の変化の中で、多様な援助ニーズへの対応が求められるようになり、これまでの開発援助の教訓を踏まえつつ、21世紀に向けての長期的な開発戦略の構築とグローバルなパートナーシップの確立を目指し、1996年5月にOECDのDAC上級会合において、『21世紀に向けて：開発協力を通じた貢献』（通称「DAC新開発戦略」）が採択された。

わが国はこのDAC新開発戦略を適用するにあたり、カンボディア、ペルー、エチオピア、ガーナ、タンザニア、ジンバブエの6ヵ国を他に先駆けて重点的に取り組んでおり、本研究会では、その中でカンボディア、ガーナ、ジンバブエの3ヵ国を取り上げ、DAC新開発戦略を踏まえたわが国の国別援助のあり方の検討を行った。また、こうした国別検討に資するため、貧困、教育、保健医療及び環境の4分野についても分野別の検討を行った。

本研究会は、座長のほかに大学および研究機関の研究者、海外経済協力基金職員、国際協力事業団の職員および国際協力専門員による研究会委員、そしてタスクフォース・メンバーによって構成された。研究会は、外務省とJICA関係者および研究会事務局の臨席のもとに、16回にわたる会合を重ねた。本報告書は、この会合での議論・検討を踏まえて、委員とタスクフォースが各自担当部分を執筆したものである。

最後に、本報告書をまとめるにあたり、委員およびタスクフォース各位においては、多忙中にもかかわらず原稿の執筆にご尽力頂いた。また、委員およびタスクフォースによる現地調査（ガーナ、ジンバブエ）を1997年8月に実施したが、在外公館およびJICAの現地事務所において、現地調査の準備や貴重な情報と意見の提供など、広範な協力を頂いた。さらに、JICA国際協力総合研修所の方々には事務局として本研究会の運営を支えて頂いた。ここに感謝の意を表したい。

国際協力事業団
総裁 藤田 公郎 殿

平成10年3月

DAC新開発戦略援助研究会
座長 阿部 義章

DAC 新開発戦略援助研究会委員名簿

座長

総括 あ べ よし あき
阿 部 義 章 国際協力事業団 客員国際協力専門員
早稲田大学大学院アジア太平洋センター客員教授

委員

カンボディア い と が しげる
糸 賀 滋 アジア経済研究所 APEC 研究センター コーディネーター

ガーナ いぬ かい いちろう
犬 飼 一 郎 国際大学大学院 国際関係学研究科 教授

環境 い ま い せん ろう
今 井 千 郎 国際協力事業団 国際協力専門員

教育 う つ み せい じ
内 海 成 治 大阪大学 人間科学部 教授

貧困 え し ょ ひ で き
絵 所 秀 紀 法政大学 経済学部 教授

援助動向 か さ い あきら
河 西 明 国際協力事業団 専門技術嘱託 (25周年記念史編さん室長)
(前 技術参与)

保健医療 き た え つ こ
喜 多 悦 子 Cheif Field Support and Logistics,
Emergency and Humanitarian Action, WHO
(前 国立国際医療センター 国際協力局派遣協力課長)

援助動向 はやし がおる
林 薫 海外経済協力基金 開発援助研究所 主任研究員
(援助理論研究グループ)

ジンバブエ ひ ら の か つ み
平 野 克 己 アジア経済研究所 総合研究部
アフリカ総合研究プロジェクト・チーム

(敬称略、座長以外は五十音順)

DAC 新開発戦略援助研究会タスクフォース名簿

主査	こやま のぶひろ 小 山 伸 広	国際協力事業団 国際協力専門員
アドバイザー (カンボディア)	あまかわ なおこ 天 川 直 子	アジア経済研究所 動向分析部
アドバイザー (ガーナ)	たかね つとむ 高 根 務	アジア経済研究所 アフリカ総合研究プロジェクト・チーム
アドバイザー (WID)	たなか ゆみこ 田 中 由美子	国際協力事業団 国際協力専門員
アドバイザー (ジンバブエ)	にしうら あきお 西 浦 昭 雄	創価大学 通信教育部 講師
ガーナ	あべ きみお 阿 部 記実夫	国際協力事業団 企画部 地域第三課
援助動向	きむら りょうじ 木 村 亮 二	海外経済協力基金 業務第3部 業務第2課 (平成9年9月より)
援助動向	さいとう あつこ 斎 藤 敦 子	海外経済協力基金 環境室 環境社会開発課 (平成9年9月より)
貧困	さと う ゆりこ 佐 藤 由利子	国際協力事業団 国際協力総合研修所 業務課 課長代理
教育・ジンバブエ	しだ みつよ 志 田 充 代	国際協力事業団 国際協力総合研修所 調査研究課 (財団法人日本国際協力センター派遣研究員)
カンボディア	しのやま かずよし 篠 山 和 良	国際協力事業団 国際協力総合研修所 調査研究課 (平成9年4月より)
援助動向	たかはし もとゆき 高 橋 志 行	海外経済協力基金 開発企画部 環境社会開発課 (平成9年8月まで)

総論	たなべ 田 辺	ひろし 宏	国際協力事業団 企画部 企画課
保健医療	のぐち 野 口	なかえ 奈佳恵	国際協力事業団 医療協力部 計画課 ジュニア専門員
援助動向	はらだ 原 田	てつや 徹 也	海外経済協力基金 業務第3部 業務第2課 (平成9年8月まで)
カンボディア	まるやま 丸 山	ひであき 英 朗	国際協力事業団 企画部 地域第一課 (平成9年9月まで)
貧困	むらかみ 村 上	ひろみつ 裕 道	国際協力事業団 国際協力総合研修所 調査研究課 (平成9年3月まで)
環境	やまうち 山 内	くにひろ 邦 裕	国際協力事業団 企画部 環境・女性課 課長代理

(敬称略、アドバイザー・タスクは各々で五十音順)

DAC 新開発戦略援助研究会報告書

第1巻「総論」

目次

DAC 新開発戦略援助研究会委員名簿	v
DAC 新開発戦略援助研究会タスクフォース名簿	vi
略語表	xii
要約	xv
1. 研究会の概要	1
1 - 1 研究会設置の背景	1
1 - 2 研究会の目的と検討内容	1
1 - 3 研究会の構成と特徴	2
1 - 4 研究会の進め方	3
1 - 5 報告書の構成	3
2. DAC 新開発戦略の背景とビジョン	4
2 - 1 グローバリゼーションの進展	4
2 - 2 途上国の開発の現状とグローバリゼーション	5
2 - 3 戦後50年の開発の経験	8
2 - 4 21世紀に向けた開発のビジョン	10
3. DAC 新開発戦略の概要	12
3 - 1 DAC 新開発戦略の全体構成	12
3 - 2 DAC 新開発戦略における4分野7目標	15
3 - 3 DAC 新開発戦略が採用するアプローチ	17
(1) 国際的な援助協調：貧困軽減を目指す外部パートナーの努力の結集	18
(2) 個別（国別）アプローチ：途上国それぞれのニーズを満たす援助	18
(3) マルチセクター・アプローチ：分野間にバランスのとれた開発と援助	18
(4) 包括的アプローチ：多様な援助資源の動員による開発と援助	19
(5) 成果重視のアプローチ：進歩の継続的な確認による目標への接近	19
4. DAC 新開発戦略の分野別検討	20
4 - 1 「貧困」の課題と目標・提言	20
4 - 2 「教育」の課題と目標・提言	25
4 - 3 「保健医療」の課題と目標・提言	29
4 - 4 「環境」の課題と目標・提言	33
4 - 5 分野別検討のわが国援助に対する示唆	37
(1) 全般的な国際的援助協調	38
(2) マルチセクター・アプローチ	38
(3) 包括的アプローチ	42

5. DAC 新開発戦略の国別検討	44
5 - 1 ジンバブエの課題と目標・提言	44
5 - 2 ガーナの課題と目標・提言	50
5 - 3 カンボディアの課題と目標・提言	56
5 - 4 国別検討のわが国援助に対する示唆	60
(1) 特定の途上国を対象とする国際的な援助協調	61
(2) 国別アプローチ	62
(3) 成果重視のアプローチ	64
6. 「DAC 新開発戦略」を踏まえたわが国援助のあり方.....	66
フローチャート.....	66
6 - 1 「DAC 新開発戦略」についての基本的考え方.....	67
6 - 2 「DAC 新開発戦略」への取り組み方.....	69
(1) 「国際的な援助協調」への取り組み	69
(2) 「国別アプローチ」への取り組み	70
(3) 「成果重視のアプローチ」への取り組み	71
(4) 「マルチセクター・アプローチ」への取り組み	72
(5) 「包括的アプローチ」への取り組み	73
6 - 3 「DAC 新開発戦略」の実施に向けた援助体制の整備.....	73
(1) わが国援助体制の課題	73
(2) 国別アプローチの強化に向けた援助体制の整備	75
<表リスト>	
表2 - 1 1965-1995年における途上国間注の一人当たり所得水準の両極化傾向.....	7
表2 - 2 成長と不平等・貧困	9
表3 - 1 DAC新開発戦略の構成要素.....	14
表4 - 1 途上国における1日1米ドル以下の貧困人口（1987-1993年）.....	20
<図リスト>	
図3 - 1 DAC新開発戦略の全体像.....	12
図4 - 1 4分野の問題関連図	39
参考文献	79

参考資料

『21世紀に向けて：開発協力を通じた貢献』（日本文）.....	81
Shaping the 21st Century：The Contribution of Development Co-operation（原文）.....	101

DAC 新開発戦略援助研究会報告書

全体目次

第1巻 「総論」

1. 研究会の概要
2. DAC 新開発戦略の背景とビジョン
3. DAC 新開発戦略の概要
4. DAC 新開発戦略の分野別検討
5. DAC 新開発戦略の国別検討
6. 「DAC 新開発戦略」を踏まえたわが国援助のあり方

第2巻 「分野別検討」

I. 貧 困

1. 「DAC 報告書」での貧困問題の捉え方
2. 貧困問題へのアプローチ - 主要論点の整理
3. DAC 新戦略実施にあたっての注意点
4. 貧困分野に対する援助の動向
5. 提言 - DAC 新開発戦略（貧困）実施に向けたわが国援助のあり方

II. 教 育

1. 教育開発の問題の捉え方
2. 開発途上国の教育の現状と課題
3. 教育改善に対する援助の動向
4. 教育分野における DAC 新開発戦略の実施
5. 提言 - DAC 新開発戦略（教育）実施に向けたわが国援助のあり方

III. 保健医療

1. 保健医療問題の捉え方
2. 保健医療問題の現状と課題
3. 保健医療改善への取り組み - 保健政策
4. 援助の動向
5. DAC 新開発戦略の実施
6. 提言 - DAC 新開発戦略（保健医療）実施に向けたわが国援助のあり方

IV . 環 境

- 1 . 環境問題の捉え方
- 2 . 「DAC 新開発戦略」の目標
- 3 . 環境問題の多様性、問題領域、課題
- 4 . 環境問題の取組
- 5 . 環境問題に対する援助の動向
- 6 . 環境資源の減少傾向の逆転を目指す「DAC 新開発戦略」の実施
- 7 . 提言 - DAC 新開発戦略（環境）実施に向けたわが国援助のあり方

第 3 卷 「国別検討」

I . ジンバブエ

- 1 . ジンバブエの社会経済の概況
- 2 . 政治の動向
- 3 . 主要援助国及び国際機関の援助動向
- 4 . ジンバブエにおける開発の方向性
- 5 . 今後の開発課題 - DAC新開発戦略が意味するもの
- 6 . 提言 - わが国の対ジンバブエ援助のあり方

II . ガーナ

- 1 . ガーナ社会経済の現状
- 2 . 主要セクターの現状
- 3 . 対ガーナ援助の動向
- 4 . ガーナ開発の方向性と DAC 新開発戦略の位置づけ
- 5 . ガーナにおける DAC 新開発戦略の課題
- 6 . 提言 - わが国の対ガーナ援助のあり方

III . カンボディア

- 1 . カンボディア社会経済の現状
- 2 . 開発計画と政府の取り組み
- 3 . 社会経済開発の主要課題
- 4 . 対カンボディア援助の動向
- 5 . 今後の開発の方向性と主要課題 - DAC 新開発戦略を踏まえて
- 6 . 提言 - わが国の対カンボディア援助のあり方

第 4 卷 「国別情報」(46カ国)